

系ポリカーボネートを選定し、義歯床用ポリカーボネート樹脂RQを完成、H25年4月に発売を開始した。保険適用となる新樹脂RQでは強化材を含んでいないため、研磨作業性の向上・透明感のある良好な審美性・しなやかな装着時のフィット感という特徴を持っている。

また、弊社の新しい関連商品として、熱可塑性樹脂では全ての材料で発生する成形収縮を補うため、0.6%の膨張率を有する高膨張石膏レイニングストーンHE、石膏型面に塗布して鏡面を得ることにより、成形後には義歯の表面に鏡面を転写させ、研磨作業の軽減および義歯と石膏の分離剤として機能する石膏型鏡面仕上剤ベースコートDC、軽量・コンパクトで低価格なエア式熱可塑性樹脂成形器セレクトミニについて紹介した。

言語発達障害とことばクリニック

青木さつき（ことばクリニックST）

子どもの言語聴覚療法の原則は、主訴が「ことばの遅れ」であっても「発音が気になる」であっても、「発達レベルに合う指導内容」と「認知的特徴に合致する指導方法」であり、子どもの発達全般や背景を見ながら行う。言語聴覚士の領域は「スピーチ」だけでなく、「ランゲージ」「コミュニケーション」と広がっている。

「ことばクリニック」が歯科に併設されてよかったこととしては、①口腔内のことの相談ができる、②医療保険が適応できる、③療育センターより敷居が低い、④通いやすい診療時間である、⑤感染症をもらう可能性が低い、などがあげられ、とても好評であった。

しかし医療保険での診療には、すべての附属歯科診療所スタッフの協力が必要であった。

平成16年10月に開室した「ことばクリニック」は、12月末をもって休室することになった。それに伴い、たくさんの言語発達障害のある子どもたちが治療（支援）の場を失う。これまでの経験を生かし、歯科スタッフと言語聴覚士が協力できる場を考えながら、どこかで言語発達障害児の治療（支援）が継続・発展できるようご協力をお願いしたい。